

令和3年度 さいたま市立岸町小学校 学校経営方針

令和3年4月1日(木)
校長 笠原 実

「心を一つに」

令和3年度が始まりました。昨年度からの新型コロナウイルスへの対応は、今年度もしばらくの間は続くと予想されます。気持ちを緩めることなく、子どもたちの健康・安全を第一に考え、今年度も継続的に対応をお願いします。

今年度は、SAさんやSC・SSWさんも含めると、新しい仲間が21人いらっしゃるようになりました。新天地へ赴いたり、御退職されたりした方々の思いを受けつつ、新しい仲間と共に、今年度も全教職員が「心を一つに」して教育活動を進めていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いします。

【学校教育目標】

豊かな心を持ち、たくましく生きる児童の育成
「かしこく」「やさしく」「たくましく」「なかよく」

〈めざす児童像〉 【校訓】 「進んで、仲良く、元気に」

かしこく (進んで・知育) → しっかり勉強する子
やさしく (仲良く・徳育) → 思いやりの心ある やさしい子
たくましく (元気に・体育) → 休まず元気 からだも心もたくましい子
なかよく (仲良く・コミュニケーション) → なかよくできる器のおおきな子

〈めざす学校像〉 「夢と希望をはぐくむ 楽しい学校」

- 児童が元気に登校する学校
- 教職員が児童一人ひとりのよさを認め寄り添う学校
- 保護者・地域が理解をよせる学校

〈めざす教師・教職員像〉 「子どものよさを認める教育指導」

- 子どもを「その気」にさせる → しかって終わらない・笑顔で指導を終える
- 傾聴・共感・否定せず・最後まで → 「ティーチング」から「コーチング」へ
- 自己有用感を高める → 自分はこのに居ていい、必要とされている、役割がある
- 学び続け、指導力をつける → プロとしての教師
- 一人で悩まず組織で解決 → 「心を一つに」

〈今年度の重点〉

思いやりの心をはぐくむ

〈課題・事実〉

児童（昨年度いじめ…6件、学力は高い、自分本位の行動、学校評価から「体力向上」が課題）
保護者（PTAは非常に協力的、学校・教育への関心が高い）
教職員（働き方改革に協力的、課題を抱えた児童への対応に苦勞）

〈具体的な努力点〉

- 1 一人ひとりを大切にし、よさを見出し伸ばす（まずは、教師が思いやりの心で）
 - 児童に寄り添う。よく見て、話を聴く。共感する。安心感を与え、信頼関係を築く。
 - 自分のクラスに居がいを感じさせる。互いに「あいさつ」ができる仲間意識を醸成させる。
 - 個々の特性を認める。待つことの大切さ。指導は笑顔で終わる。
 - 「役割」が人を育てる。役割を分担し、自己有用感を高める。学級活動の充実を。
 - 課題をもつ児童への対応は、全教職員が共通理解をし、共通の行動をする。
- 2 力がついたら実感できる、もっと学びたいと思える教育活動（授業）を行う（教師も児童も）
 - できるだけ具体的に。（本物を見せる、聴かせる。実際に触る。体験する。）
 - 教え込む「ティーチング」から、考えさせる「コーチング」へ。命令ではなく問いかけを。
 - 好きなこと、得意なことを伸ばしたり、子ども同士で認め合えたりする機会を充実させる。
クラブ・委員会、縦割り活動、GSタイム、〇〇大会、〇〇キャンペーンなど。
 - 授業を見合う。積極的に授業を公開する。（授業参観、研究授業、師範授業等）
 - 子どもたちの歌声や演奏が響き合わせ、音楽で心を育てる。（コロナ対応をしながら）
- 3 美しくきれいで安全な学校にする
 - 「あいさつ」「そうじ」「くつそろえ」を本校の特色にできるようにする。
 - 無言清掃の実施。清掃場所の焦点化。短い時間で集中して清掃活動に力を注ぐ。
 - 「時を守り、場を清め、礼を正す」基本に立ち返り、凡事徹底を。
 - 机やイスを大切に使う。掲示物の剥がれ、画鋸のはずれはそのままにしない。
 - 花・緑いっぱい環境の充実。（環境委員会、PTAとの連携）
 - 子どもの作品がいっぱいの校内掲示・展示をする。
- 4 保護者・地域から信頼される学校にする
 - 現状（よい面も悪い面も）を共有し、連携協力して児童を指導をする。
 - 学校説明会の実施。懇談会時には、ビデオ放送で学校の取組や児童の様子を伝える。教職員のがんばりも積極的に伝えていく。
 - 気持ちのよい「あいさつ」を目指す。教師、保護者、地域が共通理解をして進んであいさつ。
- 5 「さいたま市GIGAスクール構想」を推進する
 - タブレットの効果的な活用やプログラミング教育の充実により、さいたまSTEAMS教育をいっそう推進する。
 - ミライシードの積極的な活用で個別最適化な学びを推進する。毎日、児童がタブレットを手にするように習慣化させる。

6 「コミュニティ・スクール」実施に向けて取り組む

→令和4年度の実施に向け、今年度は準備委員会を設置し、各委員と定期的に熟議を重ね、本校の現状や経営方針等を共通理解していただき、協力体制を築く。

・白幡中学区3校で連携し、3校に共通している「あいさつ」について、合同で取り組める活動を模索する。

7 「開校70周年」への準備を進める

→地域やPTAと連携・協力し準備委員会を立ち上げ「開校70周年」に向けて取り組み、児童の本校への母校愛を醸成すると共に、地域や保護者との絆を深め、いっそうの理解と協力が得られるようにする。

8 「体力向上」の研修の充実させる

→本年度より「体力向上」を校内研修として取り組む。

→体育科授業の改善・充実や、体育朝会の内容の工夫により、体力の向上を図る。

→投力・なわとび・逆上がり等のキャンペーンに取り組む。

→持久走記録会・なわとび大会等を通じて、達成感や充実感を味わわせ、自信が持てるようにする。

→専門的な立場の方の講演や、市教委指導主事を招聘した研究授業等を行う。

→これまでの道徳研究と関連させ、心の充実を伴った「体力向上」を目指す。

9 教職員一人ひとりを大切にした職場にする

→教職員が笑顔で過ごせる「楽しい学校」を目指す。

→たくさん話をする。思いや願いを聞かせていただき共有するところから、はじめましょう。

→一人で悩まない。ひとりごとは大きな声で。組織対応で、みんなで解決する職場にします。

→ライフステージごとの悩みに、理解ある職場にします。「お互い様精神」で。

10 校長の教育信条

教育は、信頼の上に成り立つ。